

仕合わせの和



第224号

令和2年 11. 1
(毎月1日発行)

日蓮聖人のご生涯

住職 谷川寛俊

明年(令和3年)は、日蓮聖人がご誕生なさってから丁度800年の記念の年を迎えます。その前に改めて日蓮聖人の御一生を振り返りたいと思います。

日蓮聖人が生まれる前年、討幕計画の罪により、時の後鳥羽上皇が志岐(いき)に流されます(承久の乱)。鎌倉幕府の権力は北条氏に移り、執権政治が確立される。一方大陸(中国)ではチンギス・ハンが西アジアを統一。その孫にあたるフビライ・ハンが2度におたつて九州に襲来(蒙古襲来)。日蓮聖人はまさに波乱の時代を生き、末法の世、(当時の日本)を救わんが為、『法華経』の教えのもと、身命を捨てて法華経に帰依する覚悟を持たれた。

誕生: 貞応元年(1222) 2月16日、安房国東条郷(千葉県鴨川市小湊町)に漁民の子として誕生し「善日磨(ぜんにちまる)」と命名される。この日、時ならぬ蓮の花が咲き、泉が湧き出たと伝えられる。(深海にいるはず

の鯛までが岸边に集まる。鯛ノ浦の漁港として有名)。

12歳「清澄寺入山」: 母・梅菊に送られて清澄寺(当時天台宗)道善房(どうぜんぼう)に師事し「薬王丸(やくおうまる)」に改名。学問に励み虚空蔵菩薩に「日本第一の智者となしたまえ」と祈願する。

16歳「天台宗にて出家得度」: 正式に出家し「是聖房蓮長(せししょうぼうれんちよう)」と称される。翌年には天台密教を感得する。

18歳「鎌倉へ勉学」: あらゆる研究を志す為、鎌倉行きを決意したが、鎌倉には書物が少なく、学者も多くなかった為、やがて当時の最高学府であった比叡山延暦寺に学びたいと願うようになる。

21歳「比叡山へ留学」: 比叡山延暦寺は、天台宗の開祖最澄が開いたお寺で、ここには日蓮聖人の向学心を満足させる書物に溢れていた。

24歳「法華経こそ真の教えと覚知する」: 横川定光院に暮らし、ここを拠点に高野山(和歌山県)、四天王寺(大阪)などで修行。ついに『法華経』を真実の仏語(全ての人を救うお釈迦様の唯一の教え)と決められた。

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

32歳「清澄寺立教開宗宣言」: 4月28日、清澄寺に帰り、「救いの道は『法華経』にある」と立教開宗を宣言。と同時に名を「日蓮」と改めた。人々は怒り熱心な念仏信徒であった、地頭である東条影信は激しく怒り、日蓮を捕らえるよう命令した。やがて清澄寺を下り、鎌倉に出て、松葉ヶ谷に草案を作り、そこを布教の拠点とする。

35歳「鎌倉で辻説法」: この頃から鎌倉の街頭に立つて辻説法を行う。富木常忍・池上宗仲ら有力武士が信者となり、やがて日蓮一門が形成される。翌年、大地震が起こり、その惨状を目の当たりにする。

37歳「立正安国論の構想を練る」: 飢饉(ききん)・疫病(えきびよう)が相次ぎ、社会不安が広がった。たび重なる天災の原因を調べる為、駿河国(静岡県)岩本実相寺の経蔵に籠もる。その結果、災いは仏法の誤りにあると確信する。

39歳「松葉ヶ谷法難(四大法難の中が一番最初の法難)」: 7月、時の執権北条時頼に「立正安国論(りっしょうあんどくろん)」を献上し、『法華経』こそ

末法の世を救う教えである」と説いて改宗を迫る。そのため念仏信徒らの怒りをかい、8月27日、草案を焼き討ちにされる。
※立正安国論とは、正しい法を立てて国を安泰にするという意。

以下、次号へ続く...

